

人材育成に係る沖縄振興審議会専門委員会合の開催状況

【概要】

- 人材育成に係る沖縄振興審議会専門委員会合において、今年3月に2回、人材育成の課題を有識者からヒアリングし、議論を行った。

【第1回ヒアリング】

- 日時 3月15日
- 議題 沖縄における人材育成について（教育関係者からヒアリング）
- ヒアリング対象者
 - ・ 沖縄県八重山教育事務所指導班班長 市原 教孝
 - ・ 学校法人大庭学園理事長 大庭 憲
 - ・ 名護市学習支援教室ぴゅあ顧問 嘉納 英明
 - ・ NPO法人ちゅらゆい代表 金城 隆一
 - ・ 名桜大学学長 山里 勝己

【第2回ヒアリング】

- 日時 3月29日
- 議題 沖縄における人材育成について（経済界からヒアリング）
- ヒアリング対象者
 - ・ 農業生産法人株式会社あいあいファーム経営企画室長 加力 謙一
 - ・ 株式会社ANACargo沖縄統括室室長 高濱 剛司
 - ・ 沖縄経済同友会副代表幹事
 - ・ 株式会社JCC代表取締役副会長 湊辺 美紀
 - ・ 沖縄県ホテル旅館生活衛生同業組合理事長 宮里 一郎
 - ・ 株式会社アイディーズ 代表取締役社長 山川 朝賢

沖縄における人材育成に関する課題について

課 題	専門委員会合での意見
<p>1 沖縄経済をけん引するために必要な産業の発展を担う人材が不足している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ホテルについては、マネージメントをできる人材育成ができていない。マネージメント層やリーダー層の育成に取り組んでいかなければ、沖縄の観光産業を引っ張っていける人材は育たない。 ○ 理工系人材を増やし、ITを駆使できる人材を育成して沖縄経済の活性化を図るべきである。 ○ ビッグデータを扱えるようなデータサイエンティストやサイバーセキュリティー人材など高度な人材が不足している。 ○ 将来性のある人材を早い段階から集中的に教育し、将来のトップマネージメント層を育成することが必要なのではないか。
<p>2 家庭の経済状況により、進学機会が失われている子供が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 沖縄の状況として、中学校・高校卒業後の進路未決定率が高いこと、若年無業者が多いことが課題である。 ○ 沖縄県では世帯年収に全国と大きな差があり、子供たちに進学の意欲があってもそれらを断念せざるを得ない状況にある。進学にかかる費用をどのようにサポートするか課題である。 ○ 人材育成に子供の貧困が関係していることが課題として見えてきているが、費用面を支援することにより解決できるのではないか。学びたい子供達にどのような支援が可能なのか検討する必要がある。
<p>3 貧困状態により、基本的な生活習慣や学力を身につけることが難しい子供が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子供たちの課題というのは多岐にわたるため、学力の遅れだけではなく、生活支援や就労の相談も含めた総合的な支援が必要。 ○ 高校退学者が多いため、高校生を対象とした学習支援などの支援が必要。 ○ 貧困問題は、様々な問題の根底にあるものなので、しっかりと対策を打っていかねばならない。

沖縄における人材育成に関する課題について

課 題	専門委員会合での意見
<p>4 離島や北部地域においては、地理的な制約により教育機会が限られていたり、教育の質の向上に課題がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 離島の問題として、進学するためや必要なスキルを身につけたりするために島を離れざるを得ない。独学には限界があるため、島にしながら集団学習を受ける環境を整備することで、費用負担や学習の質などのさまざまな問題解決ができる。 ○ 全国的に遠隔学習、離島教育のIT利用が行われており、沖縄においても、どのように仕組みとして取り入れていくかが課題である。 ○ 北部の大きな問題として、児童生徒が中南部に流出してしまうことにある。 ○ 沖縄県の学力テスト成績は全国最下位であるが、その中でも、北部地域はさらに全県的に下位にある。

(参考)「島のゆんたく」会議における人材育成に関する意見

※「島のゆんたく」会議・・・離島における課題等に関する内閣府と地域住民との意見交換会

○石垣島（平成29年1月21日）

- ・島では18歳から99パーセントの人が島を出る。石垣市でも所得が低いのに、（竹富町などの）離島になると更に所得が低くなるので、沖縄の離島の子ども達の奨学支援の在り方について検討すべき。
- ・最近では観光客が多くなっているが、人材育成が追い付いていないのではないかと感じている。人手不足で新聞に公告を出してもなかなか募集がない。取り急ぎ人材派遣会社等から人を呼んだとしても、知識や教育が追い付かないので、質の高いサービスの提供が難しい。
- ・観光客が増えており、ハード面が良くなっても、ソフト面はなかなか追いついていない。この島に専門学校等があれば、実際に体験をしながら学べるのではないか。

○宮古島（平成29年2月18日）

- ・宮古島には大学がなく子供たちは全員外にでる。やはり、産業を振興していくための人材育成が大事。
- ・宮古島で専門学校をつくる場合、生徒や先生が集まるのかという問題があるが、ICTの活用は有効だと思う。

○久米島（平成29年4月24日）

- ・課題は人材・人員・人手不足。子ども達、孫達が自信をもってこの島で生きていけるような島を目指していきたい。
- ・高校の魅力化ということで5つの経済団体とともに非常に重点をおいて取り組んでいる。
- ・観光業界・建設業界においても人手不足。
- ・遠隔授業が可能になればとても良いと思う。それで先生の数の確保等、教科の課題はクリアできる。

○与那国島（平成29年5月21日）

- ・与那国は一昔まえより暮らしやすい地域になった。その原因はインターネットにある。
- ・島では子供の数が減少し、複式学級が増えている。ICT を活用し離島の学校同士を結ぶ教育ができないか取り組んでいる。高校のない離島に通信制高校を作るという課題も与那国だけではできず、島内に高校のない県内離島のすべてとネットワークで結んで教育が行えるような環境を整えることが必須。
- ・観光に限らず全ての産業で人手・人材不足。
- ・島外に進学しても島に戻って来られるような給付型奨学金もお願いしたい。